

すいか栽培

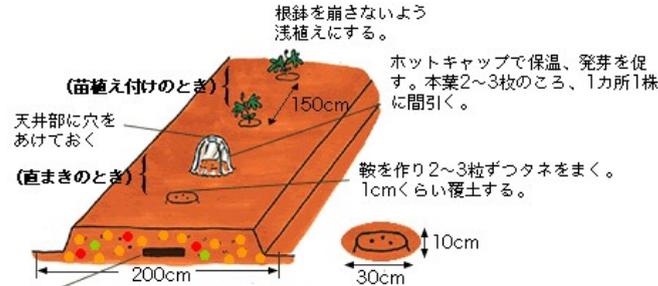
品種 **タヒキ
紅小玉
綺王**

料理ヒント&効能

10℃前後に冷やし切りたてを食べるのが一番。冷やしすぎると、味が落ちる。余分な塩分を排出するカリウムと、利尿作用に関するシトルリンを含み、肝臓病予防、むくみ改善、高血圧の予防に役立つ。

地ごしらえ、植え付け

つるが伸びてきたら敷きわらをする。



心肥は幅を広く施しておく（苗を植える位置によって場所を変える）。

- ①粗起し ● 堆肥 1m²当たり2~3kg
- pH調節 苦土石灰・・・1m²当たり100g
- ②元肥 ● 化成肥料 (N:P:K=8:8:8)・・・1m²当たり150gを全層と心肥に



換気のため、ホットキャップは天井部に穴を開けて使用する。写真の「苗帽子」は最初から穴が開けてあるので便利。

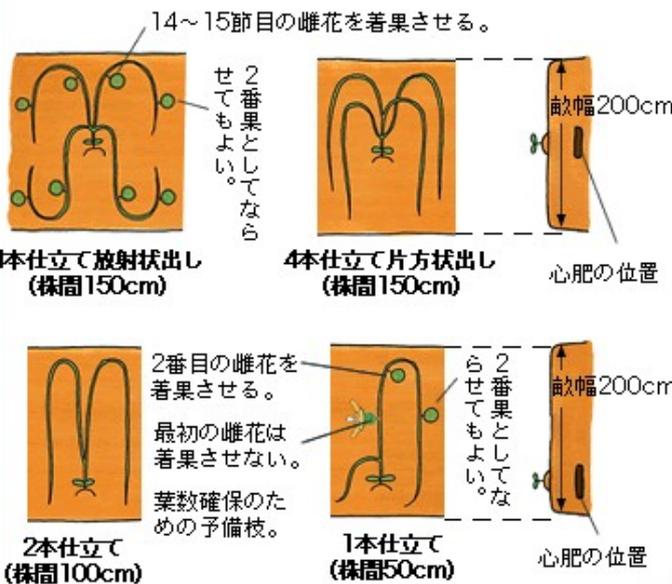


つるが伸びてきたらキャップを取り除き、敷きわらをする。

ポイント 地ごしらえ、植付け日当たりと水はけのよい場所を選びます。粗（あら）起しのとき、1m²当たり2~3kgの堆肥（たいひ）と、つる割病予防に100gの苦土石灰を一緒に施し、深く耕してpHの調整をしておきます。

元肥は化成肥料（N:P:K=8:8:8）などを1m²当たり150gを目安に、心肥と全層に分けて施します。幅2m程度の畝を立て、マルチングをして植え付けまでに地温の上昇を促し、植え付けた苗の活着を早めるようにします。

小玉スイカいろいろな整枝の仕方（這い作り）

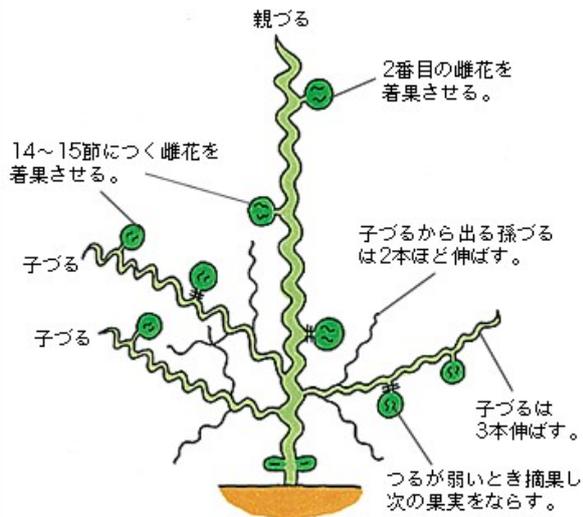


ポイント 整枝

本葉が6枚のころに摘芯して、子づるの発生を促します。子づるが伸びてきたら、生育のそろったものを4本残し、あとは摘み取ります。

子づるの間配り方は、図のように放射状に間配るのと、同一方向につるを流し、畝の端まで伸びたらUターンさせる方法があります。

大玉スイカの整枝の仕方



ポイント 整枝

大玉スイカの場合は、子づるから出る孫づるは着果節くらいまでは摘み取り、それ以降は放任しますが、小玉スイカの場合は、葉面積を確保する意味から、よほど茂りすぎない限り、孫づるは放任しておきます。

人工受粉



午前10時ごろまでに当日咲いた雌花の柱頭に当日咲いた雄花の花粉を雌しべの先にまんべんなくつけておく。



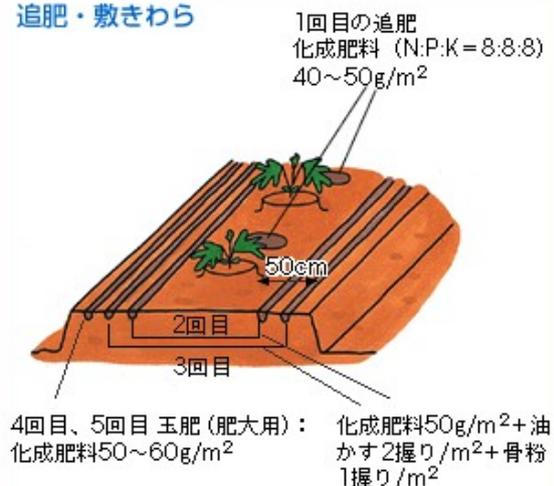
早朝のうちに受粉させるのがポイント。



スイカの雄花（上）と雌花（下）

小玉スイカの雌花は小型なので、交配作業は丁寧に。果実表面の毛を傷つけると着果しない場合もあるので注意。

追肥・敷きわら



ポイント 追肥 生育状況や開花の様相によって追肥の要領を変えます。標準的には、苗が活着してつるが伸び出したところに1回目、果実が野球ボール大になったところに2回目を与えます。それぞれつる先あたりに施して覆土をしておきます。

つるが伸び出したら、順次敷きわらを上げ、泥のはね返りや地温の上昇を抑えます。ポリのマルチングをしたときも、巻き上げがからむところがないので、風でつるが吹き回されないように、軽く敷きわらをします。

ポイント収穫 人工交配したとき、日付けを記入したラベルをつけておき、交配から1番果は40日ほど、2番果で30~35日経過したものを収穫します。その他、果実のついている節の巻きひげが枯れてきたころ、果実のついている節の葉舌が黄変したころ、果実の花落ち部がくぼんで、押さえると弾力を感じるようになったころなどを目安に収穫します。